



一東北生産性本部一

創立60周年記念 新年労使交流会を開催

平成29年1月26日（木）14時00分より、仙台市の江陽グランドホテルにおいて、『東北生産性本部創立60周年記念 新年労使交流会（新春講演会、賀詞交歓会）』を約130名のご参加を得て開催いたしました。



開会挨拶 会長 宇部文雄

・新年あけましておめでとうございます。日頃から当本部活動への特段のご理解・ご支援に厚く御礼申し上げます。

・創立60年長きにわたり当本部を牽引されてきた先輩の方々に深く敬意を表します。

・生産性の理念について、日本生産性本部名誉会長の牛尾治朗氏は「生産性というのは何よりも進化の体現である。今よりは未来はよくありたいという、人間の本質の追求でもある。その意味で我々は新しい時代を新しい課題に果敢に挑戦する気概を失ってはならない」と述べています。また、東北は東日本大震災から間もなく6年をむかえます。復興は未だ道半ばです。加えて人口減少・高齢化が進む中で東北地方再生に向けて東北人の粘強い取り組みが続いています。

・我々東北人としての自信、そして挑戦する気概を持って皆さんと共に、更なる東北地域の生産性向上、魅力ある東北をめざし、当本部の活動を展開して参りたいと考えています。引続いてのご理解ご協力をお願いします。

記念講演① 「人口減少時代における地方創生」

講師 株式会社 野村総合研究所 顧問 増田 寛也 氏



講演では、人口の推移、出生率の推移・地域差、国内での人の移動、世界でも例を見ない東京一極集中、男女の家事育児時間、人口構造の変化などについて数値・グラフ等で解説いただきました。また、政府が進めている働き方改革の内容や問題点、残された課題等について話され、まとめとして『地方創生は、ただ単に地方に闇雲に働き場所を作ることではなく、働き方改革とセットで若者達に魅力のある職場づくりが必要である。人を大事にする日本型雇用は社会環境、人口構成等で大な変化を求められている。それに相応しい働き方を提供できるか、いま正にそこが問われている。また、東北は放射光施設およびILC(国際リニアコライダー)誘致の前進に期待したい。』と話されました。

記念講演② 「生産性運動 60 年と今後の労使の役割」
 ～「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて～

講師 日本労働組合総連合会 会長 神津 里季生 氏



講演では、連合の活動の歴史や日本の労働・賃金事情等をグラフ等で解説され、春闘のまとめとして『2016 年から底上げ春闘だと主張し交渉してきたが、結果、中小企業との賃上げ率乖離は縮まったが微細である。これをどう本物に出来るかが、2017 年に問われており、デフレを脱却する春闘である。歴史の新しい形を作らなければならない。生産性運動の関わりでは、労使の切磋琢磨の中で、働く立場からは「我々は頑張るから、経営者は収益を上げてくれ。上げた収益はしっかり配分してほしい。」そういう労使関係に「ばね力」があるからこそ生産性は高まるに他ならない。経営者は取引においても対価をしっかり頂いてくるといふ、その正のサイクルを回すことが日本の社会に求められている最大の問題だと考えている。』と話されました。

新年賀詞交歓会



開会挨拶
大滝副会長



祝辞
田川東北経済産業局長



祝辞
若生宮城県副知事

<賀詞交歓会>

- ・開会挨拶 副会長 大滝剛（東北電労本部執行委員長）
- ・祝辞 東北経済産業局長 田川和幸氏
宮城県副知事 若生正博氏
- ・乾杯 日本銀行仙台支店長 竹澤秀樹氏



乾杯
竹澤日本銀行仙台支店長

※ みなさま 本年もどうぞよろしくお願いたします！！